

# 岡山県金融経済動向

## 1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、住宅投資は足もと減少しているほか、公共投資は基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

## 2. 実体経済

### (1) 個人消費

個人消費をみると、天候要因が徐々に薄れつつあり、引き続き底堅く推移している。

すなわち、10月の販売動向をみると、百貨店売上高は、暖かい日が続く衣料品が秋物を中心に不振であったものの、下旬には気温の低下に伴い持ち直したほか、食料品が堅調であったため、前年比マイナス幅を縮小させた。スーパー売上高も、生活用品が苦戦したものの、食料品に加え、下旬の気温低下によって冬物衣料に動意がみられたことから、前年比マイナス幅を縮小させた。

一方、乗用車販売では、普通車が新型車投入により増加しているものの、小型車と軽自動車の販売が引続き落ち込んだため、全体では11か月連続で前年を下回った。家電販売は、エアコンが好調に推移したものの、大型店の出店に備えた買い控えがみられたことなどから、3か月振りに前年を下回った。

このほか、旅行取扱高は、国内旅行は団体を中心に好調に推移したものの、海外旅行が不振であったため、僅かに前年を下回った。また、主要観光地への入り込みは、前年のイベントの反動等から、前年を下回った。

## ( 2 ) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(9月短観調査)をみると、非製造業では小売、建設、サービスなどを中心に小幅の減少計画にある(前年比 1.9%)が、製造業では、化学(能力増強、競争力強化)、石油・石炭製品、輸送用機械(能力増強)、電気機械(新製品対応など)を中心に増加計画となっている(同+15.0%)。この結果、全産業ベースでも増加計画となっている(同+8.9%)。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは前年を下回っている(前年比:19/4~6月+18.7% 7~9月 44.3%)<sup>1</sup>。

## ( 3 ) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法施行の影響などから、貸家を中心に足もとでは減少している(前年比:8月 60.1% 9月 20.1%)。

## ( 4 ) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、10月は、「独立行政法人等」、「県」が前年を下回ったものの、「国」、「市町村」、「その他の公共的団体」が大型工事の発注などから前年を上回ったため、全体では2か月振りに前年を上回った(前年比:9月 13.1% 10月+9.5%)。

## ( 5 ) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、10月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に堅調に推移しているほか、西欧、中東欧・ロシア向けが自動車(完成車)を中心に高い伸びを続けている(前年比:9月+4.4% 10月+17.1%)。

---

<sup>1</sup> 着工建築物床面積のこうした振れは、改正建築基準法による後ずれも影響しているものと考えられる。

## ( 6 ) 生産・出荷・在庫

9月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、繊維や化学、定期修理を行った石油で低下したものの、輸送用機械、一般機械を中心に上昇したことから、全体では2か月連続の上昇となった(前年比:8月+1.0% 9月+0.3%)。

季調済前月比では、情報通信機械、石油を中心に低下し、微減となった(季調済前月比:8月+4.6% 9月 0.3%)。

この間、在庫指数は、繊維、石油を中心に、4か月連続で前年を下回った(前年比:8月 4.5% 9月 2.1%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼、石油化学は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。このほか、電気機械でも、液晶関連、携帯電話向け部品の受注が好調なため、高めの生産を続けており、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。この間、農機具では、末端需要の低迷などから全体としては低調な生産を続けているほか、繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、石油精製は、一部の先で定期修理を行っているため、生産水準が低下している。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

## ( 7 ) 雇用・所得

労働需給面では、10月の有効求人倍率が、高水準を続けている(9月1.46倍 10月1.45倍)一方、9月の所定外労働時間は、前年を下回って推移している(前年比:8月 15.5% 9月 16.5%)。雇用面をみると、9月の常用労働者数は、僅かながら前年を下回った(前年比:8月+0.7% 9月 0.4%)。この間、10月の解雇者数は低めの水準となっている一方、雇用保険受給者数は前年を若干上回っている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、9月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回ったが、マイナス幅は縮小している(前年比:8月 7.0% 9月 3.0%)。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

## ( 8 ) 物 価

最近の岡山市消費者物価指数（平成 17 年基準、生鮮食品を除くベース）は、家具・家事用品、生鮮食品を除く食料、住居が前年を上回っているが、被服及び履物、交通・通信などが前年を下回っているため、全体では前年を僅かに上回る推移が続いている。

## ( 9 ) 企業倒産

10 月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額 10 百万円以上）をみると、倒産件数（18 件＜前年 12 件＞）が前年を上回ったほか、負債総額（124 億円＜同 9 億円＞）も、大型倒産の影響から前年を大幅に上回った。

## 3 . 金 融

### ( 1 ) 実質預金

10 月の県内実質預金をみると、個人預金が前年比プラス幅を拡大したほか、法人預金も前年を上回ったものの、公金預金が前年比マイナスに転じたため、実質預金全体の前年比は前月並みで推移した（月中平残前年比：9 月 + 1.8% 10 月 + 1.8%）。

### ( 2 ) 貸 出

10 月の県内貸出をみると、個人向けは住宅ローンを中心に前年比プラス幅が拡大したものの、企業向けでは運転資金の前年比プラス幅が縮小したほか、地公体向けも前年比プラス幅が縮小したため、貸出全体の伸び率は低下した（月中平残前年比：9 月 + 1.9% 10 月 + 1.3%）。

### ( 3 ) 貸出約定平均金利

10 月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、2 か月振りに前月比上昇した。一方、ストック金利（同）は前月比横這いとなった。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内 1 - 6 - 1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086 - 227 - 5111 (代表)

FAX 086 - 227 - 6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

## 主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	<p>全体としては、高操業が続いている。</p> <p>国内向け生産は、軽自動車は、他社向け供給の効果は継続しているものの、販売台数の減少を受けて生産水準が若干低下しているが、小型車は、新型車投入効果によって持ち直している。一方、輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、欧州向けも他社向け供給効果などから堅調に推移している。また、北米向けも新車投入効果は一巡しつつあるが、なお底堅く推移している。このほか、KDも新車投入などから持ち直している。この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造 船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>定期修理により、原油処理量および各製品の生産水準は低下している。</p> <p>この間、製品別の需要動向をみると、ナフサは、石化メーカー向けが堅調に推移している。ガソリンは弱含んでいるが、軽油は内需が底堅く推移しており、輸出向け需要も好調である。また、灯油は、需要期入りしているものの、燃料転換の進捗もあって、基調として弱含んでいる。なお、重油は、減少傾向にある。</p>
石油化学	<p>好調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、ポリエチレンは、需要が堅調に推移しているため、高水準の生産となっている。塩ビ樹脂は、輸出向けを中心に、高水準の生産となっている。ポリスチレンは、需要が弱含んでいる汎用品から高付加価値品へと生産をシフトするため、川上製品の生産設備を一部停止しており、生産量は減少している。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別の動向をみると、薄板類は、高付加価値品、汎用品ともに需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要は堅調に推移しているものの、足もとでは定期修理により、生産水準が若干低下している。形鋼類は、一部に改正建築基準法施行の影響がみられるものの、全体としては、なお高めの生産水準となっている。棒鋼類は、自動車向けや、民間建設向けの需要が堅調なため、高めの生産を続けている。</p>
耐 火 物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電気機械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、電子部品は、液晶関連や携帯電話向けを中心に受注が好調に推移しており、高水準の生産を続けている。スイッチも、携帯電話向けを中心に高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、新製品投入効果が一巡してきているものの、なお高めの生産を続けている。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより低調な生産が続いている。</p>
工作機械	<p>高操業が続いている。</p> <p>NC旋盤は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、輸出向けを主体に受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、繁忙度の高い生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>全体としては、低調な生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、コンバインは、末端需要が低調なため、低水準の生産が続いている。携帯用刈払機は、国内需要は低調に推移しているが、欧州向けを中心とした海外需要が堅調なことなどから、足もとの生産量は若干増加している。</p>